

ツアー番号
LKHAMEV3AT

真珠を巡るトレイル（21日間）

15日間・14泊　ドライバーガイド付きプライベートツアー

AI生成画像・実際の写真ではありません

このツアーについて

この21日間のルートはスリランカ全域を走るもので、空港近くの西海岸から古都が集まる文化三角地帯を経由し、紅茶生産地の高地へ、そして丘陵地帯の列車沿線でエラへ、乾燥地帯のヤラ周辺のサファリ地域へ、最後に南海岸のゴールへと至ります。短い移動を繰り返すのではなく、ひとつの連続した陸路として設計されており、各地域に数晩の滞在を設けているため、急いで通り過ぎるのではなく、ゆっくり見学する時間があります。

旅行者はスリランカの真の多面性を体験できます：ネゴンボのビーチと漁港、シギリヤの岩石要塞とダンブッラの洞窟寺院、ポロンナルワの遺跡都市、キャンディの仏歯寺と植物園、紅茶農園と涼しい気候のヌワラエリヤ、エラへの景観に優れた鉄道の旅、ヤラ国立公園でのジープサファリ、そしてゴール周辺の植民地時代の砦と海岸線です。途中、象の孤児院、スパイス庭園、稼働中の紅茶工場、シギリヤ近くの村での体験（牛車乗車と家庭料理のランチを含む）に立ち寄ります。

ペースは距離よりも深さを重視しており、ダンブッラとゴール周辺に長めの滞在を設けているため、絶え間ない移動ではなく、ひとつの拠点から複数の別々の遠足を楽しむ余裕があります。旅行と観光は終始シャフェール・ガイド付きで手配されているため、旅行者は物流を自分で管理することなく、風景、歴史、野生動物を存分に楽しむことができます。



日程詳細

1日目　ネゴンボ(1~2日目)

ツアーは西海岸のネゴンボでの2日間から始まります。空港からほど近く、市内観光のほかビーチでゆったり過ごす時間もあります。



ネゴンボ市内観光

ネゴンボは黄金色の砂浜と、今も沿岸で続く何世紀にもわたる漁業で知られています。マリンスポーツに挑戦したり、ダイビングでサンゴや海中生物を眺めたり、沖合に沈む築50年の難破船(今では多くの魚種の棲み処となっています)を見学したりすることができます。

AI生成画像・実際の写真ではありません

3日目 ダンブッラ(3~6日目)

ダンブッラを拠点とする4日間では、文化三角地帯の中心部を巡ります。象の孤児院、石窟寺院、岩山の要塞、村での体験、そして島を代表する2つの古代遺跡・野生動物保護区を訪れ、1日はホテルでの自由時間となります。



ピンナワラ・エレファントオーファナジー(象の孤児院)

サバラガムワ州のピンナワラ村にあるこの施設は、生息地を追われたり親とはぐれたりした子象たちの保護施設です。約70頭の象を飼育しており、世界最大規模の飼育象の群れを抱え、間近で象と触れ合うことができます。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0



ダンブッラ石窟寺院

ダンブッラの黄金寺院は紀元前1世紀にまで遡り、仏陀の生涯を描いた古代壁画や、数百体に及ぶ仏像・神像が、神王の洞窟や大王の洞窟を含む5つの主要な洞窟に収められています。洞窟群から少し離れた場所には、巨大な黄金の仏像が立っています。

Lankapic · CC BY 2.5



シーギリヤ・ロック(獅子岩の要塞)

5世紀にカーシャパ王によって築かれたこの岩山要塞は、麓にあるライオンの爪を模した入口にちなんで「ライオンロック」として知られるユネスコ世界遺産です。保存状態の良い壁画を横目に急な階段を登ると、段々畑状の庭園と、古代スリランカの灌漑技術を物語る今も機能する貯水池にたどり着きます。

Wrobell · CC BY-SA 3.0



シーギリヤの村体験ツアー

この村体験には牛車での移動、穏やかな湖でのカタマランサファリ、そして黄金色に輝く水田を歩く散策が含まれます。さらに伝統的な料理のデモンストレーションや、薪火で作られハスの葉に盛り付けられた手作りの昼食も楽しめます。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



ミンネリヤ国立公園

ミンネリヤ国立公園でのサファリでは、象が大群で集まる様子を観察できるチャンスがあり、5月から10月にかけての「グレート・エレファント・ギャザリング」では150頭以上が集結することもあります。公園内の低木地や森林には、他にも多くの哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類が生息しています。

Stuart Pinkney · CC BY 2.0



古代王国ポロンナルワ

ポロンナルワは10世紀から13世紀にかけて栄えた、スリランカの第二の首都です。遺跡の見どころには、ガル・ヴィハーラ、ヴァタダーゲ、ロータスバス(蓮の沐浴池)、ランカティラカ寺院、そしてこの王国の黄金期とされる治世を築いたパラークラマバーフ王にまつわる像などがあります。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0

7日目 ダンブッラ → キャンディ(7~8日目)

道中はキャンディの丘陵都市へと続き、途中でスパイスガーデンに立ち寄った後、街で最も崇敬される寺院と植物園を訪れます。



スパイスガーデン

ユーフォリア・スパイス&ハーバルガーデンは、スリランカのスパイスの都マータレーの近郊にあり、スパイスやハーブ本来の品質を保つ熱帯気候の中で栽培を行っています。ガイド付きのスパイスツアーでは、これらの植物の用途やアーユルヴェーダの原理について説明を受けられます。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



仏歯寺

このユネスコ世界遺産は16世紀に、仏陀の聖なる歯を安置し守るために建てられました。回廊やホールは赤、クリーム、黒の色彩で彩られ、彫刻を施した柱や黄金の仏像が随所に見られます。

A.Savin · FAL



ロイヤル植物園

ペラデニヤのロイヤル植物園は19世紀初頭に造られ、蘭やスパイス、薬用植物など4,000種以上の植物を有しています。見どころには大砲の木(カノンボールツリー)、吊り橋、生垣の迷路、そして巨木や希少な樹木が並ぶ並木道などがあります。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0

9日目 キャンディ → ヌワラエリヤ(9~10日目)

中央高地のヌワラエリヤへと向かうこの日は、滝と紅茶工場を訪れた後、街そのものを観光します。オプションでホートンプレインズへのトレッキングも可能です。



ランボダの滝

ランボダの滝は、国内で11番目に高い滝です。この日はほかにも、木陰が心地よいハッカラ植物園や、グレゴリー湖畔の散策も含まれます。

A.Savin · FAL

紅茶工場

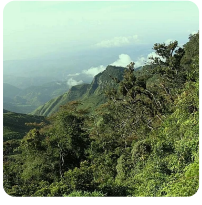
この紅茶工場とプランテーションでは、セイロンティーの製造工程を見学できます。この伝統は1824年、茶の木が初めてセイロンに持ち込まれロイヤル植物園に植えられたことに始まります。1852年に渡来し、キャンディのルーレコンデラ農園に定住した英国人プランターのジェームズ・テイラーが、島に商業的な茶栽培をもたらしました。



霧の街ヌワラエリヤを探訪

標高約6,200フィートの紅茶の国の中心に位置するヌワラエリヤは、イギリスの田園風景を模して造られた街で、ジョージアン様式やクイーン・アン様式の家々、手入れの行き届いた芝生、英国国教会の教会、そしてゴルフ場が点在します。この標高が、涼しく爽やかな空気を保っています。

Abdul malik77 · CC BY-SA 4.0



ホートンプレインズ

オヒヤ近郊にあるホートンプレインズ国立公園は、山岳草原と雲霧林が広がるエリアです。見どころには「世界の果て」と呼ばれる断崖や、涼を誘うベーカーズ滝、そしてこの高原に生息する多くの固有種が含まれます。

Faslan at en.wikipedia · CC BY-SA 3.0

11日目 ヌワラエリヤ → エラ(11~12日目)

再び紅茶工場を訪れた後、ナヌオヤからエラへと島内屈指の絶景鉄道の旅が続きます。その後はエラでの自由日が待っています。

紅茶工場

この紅茶工場とプランテーションでは、セイロンティーの製造工程を見学できます。この伝統は1824年、茶の木が初めてセイロンに持ち込まれロイヤル植物園に植えられたことに始まります。1852年に渡来し、キャンディのルーレコンデラ農園に定住した英国人プランターのジェームズ・テイラーが、島に商業的な茶栽培をもたらしました。



絶景列車の旅

ナヌオヤからエラへの鉄道の旅は高原地帯を抜け、茶畑や霧に包まれた山々の背景、そしてハプタレーの風景を車窓から楽しむことができます。この旅では、列車が下っていくにつれて山々や森林、滝も目にすることができます。

Chamal N · CC BY-SA 3.0

13日目 エラ → ヤーラ(13~14日目)

エラから低地のヤーラへと下り、国内第2位の広さを誇る国立公園でジープサファリを楽しみます。



ヤーラ国立公園

この3時間のサファリでは、南東海岸に位置する国内第2位の広さを誇るヤーラ国立公園を探訪します。この公園にはスリランカヒョウ、野生のスイギュウ、スリランカナマケグマ、そして大群をなす象が生息するほか、その他多くの哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物も見られます。

Ranmith Welikala · CC BY-SA 4.0

15日目 ゴール(15~20日目)

最終日程は南海岸のゴール周辺で過ごします。沿岸の自然スポット、丘の上のランドマーク、そして旧植民地時代の要塞都市を訪れ、出発前にはビーチでくつろぐ時間もあります。



ウサンゴダ・ビーチ

ウサンゴダは、有毒な重金属を含む蛇紋岩の影響で木々がほとんど育たない、特異な海岸地帯です。耐性を持つ一部の小さな植物のみが生育しています。地元の伝説ではこの地はラーマーヤナと結び付けられ、はげた土地はハヌマーンの燃える尾や、ラーヴァナ王がその戦車の発着地としてこの台地を利用したという逸話に関連付けられています。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



ルマッサラ

ゴールの東に数キロ離れたルマッサラの丘は、頂上に立つ白い仏塔が目印で、ウナワトゥナ・ビーチのランドマークとなっています。伝説では、ハヌマーンが運んでいたドローナギリ山の一部が落ちてできたとされ、シータがランカーに滞在していたことにも関連付けられています。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



旧植民地都市ゴール

ゴール要塞はポルトガルとオランダ双方の拠点であり、アジアで最も保存状態の良い要塞の一つとして残っています。街には博物館や灯台、オランダ語の名が残る石畳の通りがあり、散策を楽しめます。

Rovin Shanila · CC BY-SA 4.0